

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903086	事業の開始年月日	平成29年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	新星ハウス株式会社		
事業所名	グループホーム はくおうの里		
所在地	(239-0842) 神奈川県 横須賀市 長沢 1-34-15		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
		通い定員 名	
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員 名	
		定員計 18 名	
		ユニット数 2 ユニット	
自己評価作成日	平成29年9月30日	評価結果 市町村受理日	平成30年2月6日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達、「はくおうの里」で働くすべての者は、高齢又は認知症によって自立した生活が困難になった方々の安心と尊厳のある生活を守るために力を尽くすことに使命感と誇りを感じています。

はくおうの里の利用者は自分で自分を守ることが難しく、介護サービスは利用者のプライバシーを守るため、人目に触れない形で提供されるという特性を持っています。それだけにはくおうの里で働く職員は常に公正でなければならないと自覚しております。又、地域住民との交流の下ではくおうの里が生活の場だと実感できるよう支援します私達は利用者の利益を守ることを第一に考え、自らの行動の規範として倫理綱領を守ることを誓います

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年11月15日	評価機関 評価決定日	平成30年1月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は京急長沢駅より南方面へ徒歩2分程の処で、自社ビルの2階・3階を活用したグループホームです。運営法人は不動産の管理・仲介業を営む地元の株式会社です。施設長はじめ職員は創業者が策定した「倫理綱領」と「理念」の共有と実践を目指して相互に協力し合い運営しています。

<優れている点>

創設者が思いを込めて伝えた「社員が守るべき10項目の行動規範(倫理綱領)」と「4項目の理念」の基に、職員は利用者を最期まで支援しています。理念(略記)は「生命の大切さを尊び穏やかで安らぎのある生活の場の提供」「信頼と愛情と笑顔を大切に」「専門的知識と技術の向上に努力」「地域との交流を図り、明るく生き生きと行動できるよう援助」としています。利用者は居室に閉じこもらず、殆どがリビングに出て、職員の声掛けに応え、和気あいあいと過ごしています。また、職員は相互に協力し、家庭的な雰囲気作りに配慮しています。

<工夫点>

ホームの開設間もない頃、理念が目指す「地域との交流」に向け、施設長の工夫で始めた街の「ごみ置き場」の清掃は現在でも継続しています。当時、集まっていたカラスの群れも来なくなり、近隣住民から喜ばれています。今では地域との交流が進み、旬の野菜や花の差し入れを貰っています。また、利用者の日常生活の活性化に向け、職員の工夫で始めたビンゴ大会は、賞品もあり、利用者が楽しみにするなど変化が現れています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム はくおうの里
ユニット名	はくおうの里 二階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①グループホームはくおうの里の倫理綱領を作り理念を共有し実践している。②入居前より交流のあった皆様とのお付き合いを大切に、いきいきとした生活を支援している。③管理者は率先して先頭に立ち実践につなげると共に職員に模範を示している。	創設者が思いを込めて策定した行動規範としての「倫理綱領」と「生命の大切さを尊び穏やかで安らぎのある生活の場を提供します」など4項目の「理念」を掲げています。施設長を中心に職員全員が理念を共有し、その実践に向けた利用者支援を実施しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	①施設は経営者の地元に位置しており近所の農家より数年前より野菜のお裾分けを戴く等良好な関係を保持している。②町内のゴミ集積場所の清掃を施設が日常的に実施し感謝されている③町内会長及び町内の役員さんとは積極的ににお会いし意見を交換している。	町内会に加入しており、管理者が数年前から始めた「生ごみ集積場の清掃」は今も続いています。行事の際にはボランティアの訪問があり、ハーモニカ演奏や紙芝居で楽しんでいます。創設者は地元の人で、近隣から野菜などの差し入れもあり、事業所は地域の一員となっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	①町内の高齢者世帯で伴侶の認知症に理解できず苦慮するお年寄りにアドバイスをして感謝されている。また施設に訪れた徘徊老人で苦慮する町内の家族に細部にわたり解説し感謝され成果を上げている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	①些細なことでも施設で抱え込まずグループホーム協議会や行政に相談し早急に問題の解決を図るようにしているが最近では安定している。②最近では特にこれといった問題に直面していないが基本は行政に支援及びアドバイスを頂く考えである。	運営推進会議は隔月に開催しています。利用者の現状や防災対策での課題を報告しています。地域代表の委員から「ホームが忙しい時は、お手伝いも出来ますよ」との申し入れなどを貰っています。9月の会議の後には、事業所の敬老会にも参加し、共に余興を楽しんでいます。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	①些細なことでも施設で抱え込まずグループホーム協議会や行政に相談し早急に問題の解決を図るようにしているが最近では安定している。	現在、市役所への相談事はありませんが、担当課へは定期的な報告や利用者の認定更新時に訪問し、関係性を保っています。また、定例的に開催するグループホーム協議会に出席し、運営上の情報交換や職員の研修について話合っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	①身体拘束の防止については全職員が常に厳しく徹底しております。またその重要性についても認識し介護に対応している。②創設以来身体拘束は一件も発生していない。③管理者等が先頭になり毎日の介護・仕事の中で拘束に近い状態が発生していないか最善の注意を払っている。	管理者は、前年度採用の5名の非常勤職員の入職時に「はくおうの里の倫理綱領」をはじめ「倫理」について教育しています。また、「身体拘束ゼロの手引き」を教材として、丁寧に研修しています。利用者は朝食時から夕食時までの殆どをリビングで過ごし、見守られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	①施設内で研修会を計画し虐待の防止に努力研鑽している。②全職員はその重要性を認識し毎日の介護に対応している。③取締役及び管理者は常に虐待の防止に最善の注意を傾注している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	①制度については・書類等預かりサービス・福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス等一応理解している。②現在この制度に該当する人は三名在籍しておりますがこの事業に係る職員としては制度の熟知に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	①契約に関しては努めて本人及び親族に同席して頂き入念に説明しその場で契約を締結しないで、契約書を持ち帰っていただき納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。②契約に関しては一切問題は起きていない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	①利用者さんは重度の認知症の方が多く意見の徴収は困難な状況ですが家族からは電話及び無記名の投票箱も準備してあり意見の徴集する態勢は出来ている。②創設以来気になるような意見は無い。利用者に対する対応に感謝の意見が多い。	職員は、利用者の意向を日頃の支援の中で把握するよう努めています。家族などの声は面会時や家族会（敬老会の後）の時、または電話による会話の際に把握するよう努めています。現在、気になる意見はありませんが、印象的な内容があれば記録に残したいと施設長は考えています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	①業務の運営・活性化のため毎月職員会議を開催し職員の忌憚の無い意見を尊重し「業務改善意見」として反映している。②意見交換はマンネリ化を防止し運営に多大なる成果を上げ貢献をしている	運営の改善などに向け、毎月ユニットごとに職員会議を開催し、施設長は両方に参加しています。また、個別に職員の意向把握に努めています。最近、職員の声を反映して折り紙や賞品付きのビンゴ大会を実施し、利用者の活性化を図っています。	職員会議はユニットごとに実施していますが、職員が手薄な時の相互応援など、事業所の総合力が発揮できるよう、全体の会議やユニット相互間の協力体制の検討が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は施設・事業把握を急ぐとともに、利用者との懇談及び家族等との電話での対応そして地域密着型での職員の勤務状況を確実に把握しつつある。一方職員は理念に基づき堅実に働き成果を上げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場研修は計画を作成し毎年実施している、又外部研修は日給及び諸経費を支給しそれぞれ多大なる成果を上げている。なお外部研修参加については職員各位の判断で外部計画に参加するよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	①市内同業者との懇親会・懇談会に自主的に参加しサービスの向上に研鑽している。②近所にも同業者が頑張っておりますので良い意味でライバル意識を持ちお互いに切磋琢磨している。③入居希望者等の紹介をするなど良い関係を保持している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	①施設に入居前に本人・家族等より詳細に亙りお話を承り、また担当のケアマネよりも状況を説明を受けている。特に本人が困っていること不安に思っていることは概ね把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	①家族の困っていること、不安に思っていること等の相談を受け入れる体制は確保している。家族の不安を払拭することは毎日些細なことでも利用者さんの状況を電話で通知している。②施設からのお願いで最近家族の面会の機会が多くなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	①入所前に施設見学により自立に向け必要な支援を見極め把握し、又受け入れのための検討会を実施している。②現在他のサービスが必要とする利用者さんは在籍しないが施設としてはいつでも対応できる心の準備は出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	①孤独の状況に落ちがちな9人家族(利用者さん)を支えながら自立に向け職員は侵食を共にしながら切磋琢磨している。②職員は努めて平等に全利用者と毎日会話に心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	①現在家族は施設に全面的にゆだねたような関係になっておりますが、今後は家族よりの積極的な支援を期待している。②施設にまかせっきりで利用者様と家族は疎遠になりがちであるが此の関係を改善したい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	①施設の理念でもあり馴染みの町内・友人との関係を大切に支援し努力しているが最近重度の認知症の方が多くなり苦慮している。②本人の希望により元気な利用者さんは入所前の町内に案内し旧交を温める支援をしている。	事業所の理念に「地域との交流を図り、明るく生き生きと活動できるよう支援します」と掲げています。最近では、外出より屋内での生活を望む利用者が増加しています。希望により、家族との外出や美容院へ案内するケースもあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	①最近重度の利用者さんが多くなり元気な利用者さんが虚弱な方の手を引いたり居室の掃除を手伝う状況は少なくなったが良好な関係を保持している。②施設全般は重度化し対応が困難になってきたが利用者同士の関係は良好である。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	①本人等の希望により老人ホーム等に移設する場合は新しい施設で支障が生じないようにグループホームでの生活状況を通知する等関係を保持している。②他所に移動しても積極的に情報を提供しよう心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	①利用者さんが本当に望んでいること、利用者さんにとって本当に必要なことは何かを把握し本人本位に支援している。又キーパーソンの意見も尊重している。②強度の認知症の方は話しかけや手を握るなどのスキンシップを図っている。	利用者の思いや意向は入所時に把握していますが、その後の体調の変化もあり、日常生活支援の中で把握しています。トイレの近い利用者の意向でポータブルトイレの活用を図った例もあります。施設長は、利用者の意向はメモなどにより、職員間で共有したいと考えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	①プライバシーの問題もあり把握は困難を伴いますが利用者さん個々の歴史や経過を把握することに職員は努力している②今後も家族等のご協力を頂きながら根気よく把握に努める。しかし、大半の利用者さんの生活歴等は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	①本人の出来ること出来ないこと、分かること分からないことを把握することが大切であり実施している。今後も現状把握にベストを尽くす。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	①本人がより良く暮らすためにどんな支援が必要か、家族職員の意見を参考に、また毎日の様子・過去の生活を参考に検討し計画を作成している。②モニタリングは必要な時にその都度実施しているが少なくとも3か月に1回は結果を記録している。	介護計画は利用者の過去の生活を参考にして「国際生活機能分類（ICF）」の視点から課題分析しています。傷害や日常生活動作などを考慮し、担当者会議・利用者家族で説明・同意を経て作成しています。モニタリングは変化の都度、または3ヶ月ごとを標準として実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	①毎日本人の様子を克明に記録し職員は共有すると共に介護計画に反映させている。②職員の意見を尊重し状況によってはケアプランの見直しをしている。③ケアプラン変更の場合は特に利用者さんの新しい兆候に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	①突然帰宅願望が発生した場合は家族と相談し臨機に対応している。又帰宅したけど馴染みの職員のいる施設に早く帰りたい。と言われるほど良好な関係を保持している。②最近施設全体が落ち着いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	①外出先で施設に帰れない場合を想定し警察・近隣の関係者に平素より協力関係を依頼している。②ボランティア（紙芝居・歌ボラ・会話）を受入れ成果を上げている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	①かかりつけ医の受診を最優先させている。なお主治医は24時間365日の対応で感謝している。②かかりつけ医が突然不在の場合は病院の看護師が対応している。③施設の看護師も何時でも電話で対応して頂ける体制は出来ている。	かかりつけ医の継続を優先しています。協力医の久里浜在宅クリニックは月2回訪問しています。協力医は24時間対応なので、主治医が不在や緊急の場合でも利用者・家族の安心が得られています。歯科医の週1回訪問の他、事業所の看護師も利用者の健康管理を行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	①看護師により日常の健康管理や相談を実施している。又毎日の生活の中から個別の健康管理を実施すると共に即応体制にも迅速に対応できる体制を確保している。②看護師は施設より近く素早い対応をしてくれ助かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①重度化した場合の対応・医療連携及び看取りに関する指針があり利用者・家族の承諾を頂き共有している。②キーパーソンからの要請で延命処置は必要ないと承諾を頂いている方もおられる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	①重度化した場合の対応・医療連携及び看取りに関する指針があり利用者・家族の承諾を頂き共有している。②キーパーソンからの要請で延命処置は必要ないと承諾を頂いている方もおられる。	終末期などの対応は入所時に理解を得ていますが、実際に重度化した場合は主治医・家族・事業所の3者で話し合い、家族の要望に沿って支援しています。昨年は5名を看取っています。施設長を中心に、常に誰かが側にいる事を基本としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	①急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり職員には徹底しておりますが、創設以来幸いにも事例が少ないため、対応未経験の職員も在籍しており今後も定期的に訓練している。②施設のミーティング等の時間を利用し管理者からの説明や勉強会でかなりの練度に上達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	①防災計画に沿って定期的に訓練を実施し消防署に報告済みである。なお、町内よりの支援依頼については町内会長より承諾を頂いている。②地域よりの支援協力なくして安全は確保できないことを肝に銘じている。	避難訓練は年2回行い、1回は消防署の協力を得ています。各階に、建物外に避難が可能な避難用具を設置しています。町内の防災訓練には施設長が参加し、地域との交流を深めています。食料は3日分を用意し、他に衛生用品・毛布などを用意しています。	フロア内のカウンター下に食材の入った箱やおむつなどが積まれています。災害時・緊急時の移動に障るため、置き場所の検討が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	①ケアマネージメントでは利用者・家族のプライバシーを聞き取るため施としては厳重な守秘義務を課せている。又職員も全員趣旨を理解している。②特に排泄時及び入浴時の対応は最善を尽くしている。	利用者の尊厳を損なわないよう日々の支援の中で説明や注意を行い、職員に伝えています。プライバシーに関しては排泄時の声掛けに配慮し、トイレはカーテンのみの仕切りなので、バスタオルを掛けるなど最善を尽くしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	①毎日の生活の中で意図的（入浴の順番・カラオケの選曲・テレビ番組の選曲・散歩先の選択）に促す取組みを日常的に実施している②強度の認知症の利用者さんには苦慮しているが時間を掛けながら決定を引き出すよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自立支援を図るため利用者の「出来そうなこと」「やりたいこと」を極力手を出さず見守りを重視している。また散歩については本人の意向・希望を尊重してその都度実施しているが利用者が重度化しており対応に苦慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	①身だしなみについてはそれぞれの好みどおりに、又美容院については希望通り支援している。②顔なじみの理容店又は美容店に予約を取り送迎のサービスを継続している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さんと職員は同じ食事を一緒に楽しみながら食べ方の混乱や・食べこぼし等に対する支援をさりげなく実施している。食事の支度は元気な利用者と共に実施するよう心がけている。一人で食べることができない利用者さんには職員の全介助で実施している。	メニューの作成や食材は業者に依頼していますが、調理は職員が行っていますが、職員は利用者と一緒に、食事介助や食べこぼしの世話をさりげなく行い、楽しく話をしながら同じ食事をしています。食事の支度や片付けなどを手伝う利用者の姿も見られます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養の過不足が起こらないよう毎日の食事で見守りを重視している又食事については外食産業の管理栄養士にメニューの希望を出し支援している。水分の確保については問題はない。しかし空腹感・満腹感の喪失した利用者さんには最善の注意を傾注している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨き・うがい・入れ歯の消毒及び出血や炎症のチェック等利用者の残存機能を引き出しながら口の中の汚れや臭いが生じないように口腔の清潔を日常的にそれとなく支援している。なお、残存機能を失いつつある利用者さんには意識に乏しく全面的に支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	①オムツを出来る限り使用しないで済むように利用者の排泄パターンを把握し事前にトイレへ声掛けしている。②個別の24時間体制の排泄記録を作成し支援している。③現在排泄自立者が残存機能わ失うことの無いよう最善の努力をしている。	個別に24時間体制の排泄記録を付け、排泄パターンを把握しています。職員による事前の声掛けや誘導を行う事で、夜間はオムツを使用しても、日中はトイレでの排泄を促して成功した利用者もいます。出来るだけオムツの使用を控え、排泄自立が出来ている人には、その維持に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	①自然排便を促すため水分補給・繊維食品及び運動散歩の追加等毎日の生活の中で継続的に対応している。②個別に排泄の状況を把握し対応している。③食べ物・毎日の機能訓練にも配慮している。④オムツ利用者にはそれぞれ時間でトイレに対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	①浴槽は一般家庭と同じお風呂でゆっくり楽しく本人のペースで対応している。又機械浴も完備しており、重度の方及び風呂嫌いの利用者さんもそれとなく誘い週2回以上は実施している②浴室での転倒事故防止には最善を尽くしている。	浴槽は一般浴と機械浴があります。重度者が増えている事もあり、週2回の入浴が標準です。希望者は毎日でも入る事が出来ます。入浴は利用者のペースに合わせてゆっくり行っています。また、季節に応じた菖蒲湯やゆず湯なども行い、楽しめるようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	①眠れない利用者さんには日中の活動に配慮している。なおどうしても眠れない夜は職員が話し相手になる等対応している。②眠剤に頼らないよう日中に散歩・軽度の運動を常に心がけている。③夜間眠れない利用者さんには短時間話し相手で眠気をさそっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	①医師・薬剤師よりのアドバイス及び市販の本による解説で概ね職員は理解している。なお薬の管理は利用者さんは困難であり施設で管理している。②副作用が出ることもあるためほかの持病についても看護師の説明で理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	①自立支援を図るためそれぞれの利用者さんの「できそうなこと」「やりたいこと」を極力手を出さずに見守りを重視することにより楽しみ、気分転換を支援している。②誕生会を設定し、楽しみ気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	①努めて散歩若しくはドライブにより外出を楽しんで頂けるよう配慮しているが重度の利用者が多く苦慮している。なお施設には専用の車両を配置してありいつでも利用できる。②強度の認知症の方には施設の前が公園であり大いに気分転換に役立っている。	重度者が多くなっているため、事業所全体で外出をする事が出来なくなっています。事業所の前にある公園へ散歩に行き、地域の子供達と触れ合っています。また施設に専用の車両を配置しているので、施設長が個別にドライブに連れて出る事あります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	①お金を管理できる利用者さんは在籍しておりません②全利用者は施設で管理し日用品や化粧品等を自由に買い物できるよう支援している。③強度の認知症のお年寄りはお店の店員さんと事前に調整し実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	①電話については利用者さんの希望の都度を支援している。手紙を書ける入居者は在籍しておらない為一ヶ月に一度は家族宛に管理者より近況を知らせている。②重度の認知症の方は家族に通知を特に密にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	①職員は利用者さんの要望を取り入れ居室・食堂の配置を変更したり、また地元農家より度々生花の差し入れがあり居心地の良い環境を確保している。②フロアーの配置換えは重度の認知症のお年寄りを混乱させるので特に注意している。③自室で過ごす時間は少なく大半は皆さんとで過ごしている。	リビングではいつも利用者がくつろぎ、職員や利用者同士で団欒を楽しんでいます。日中は殆どの利用者がリビングで過ごしています。壁には利用者の写真が貼ってあり、地域の人から貰った生花が飾られ、穏やかな空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	①それぞれの居室は床暖房また暖冷房が完備してあり一人で静かに過ごすことが出来る。また気の合う友達と話すことが出来るようそれぞれ配慮している。②重度の認知症の方は配置換えに混乱が起きないように配慮しながら実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	①思い出の建具等持込み楽しく居心地のよい環境を確保している②家族等と話し合っ利用者さんの自宅より思い出の物品を搬入している。③各自のお部屋はそれぞれ気に入った配置になっている。④利用者の大半の方は皆さんとフロアーで過ごす時間が長い。	居室は南向きで日当たりも良く、窓からは公園が見え、子供達が遊んでいるところを眺めている人もいます。室内の家具はすべて持ち込みで、使い慣れた家具や思い出の物を持ち込み、落ち着いたレイアウトとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	①施設内はそれぞれの身体機能を活かすことが出来るよう安全で自立した生活が出来るよう細部に亘り配慮している。②残存機能を少しでも維持できるよう職員は切磋琢磨している。④それぞれの残存機能に合わせた機能訓練計画を作成し対応している。		

事業所名	グループホーム はくおうの里
ユニット名	はくおうの里 三階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	①グループホームはくおうの里の倫理綱領を作り理念を共有し実践している。②入居前より交流のあった皆様とのお付き合いを大切にし、いきいきとした生活を支援している。③管理者は率先して先頭に立ち実践につなげると共に職員に模範を示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	①施設は経営者の地元に位置しており近所の農家より数年前より野菜のお裾分けを戴く等良好な関係を保持している。②町内のゴミ集積場所の清掃を施設が日常的に実施し感謝されている③町内会長及び町内の役員さんとは積極的ににお会いし意見を交換している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	①町内の高齢者世帯で伴侶の認知症に理解できず苦慮するお年寄りにアドバイスをして感謝されている。また施設に訪れた徘徊老人で苦慮する町内の家族に細部にわたり解説し感謝され成果を上げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	①些細なことでも施設で抱え込まずグループホーム協議会や行政に相談し早急に問題の解決を図るようにしているが最近はやや安定している。②最近はやや特にこれといった問題に直面していないが基本は行政に支援及びアドバイスを頂く考えである。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	①些細なことでも施設で抱え込まずグループホーム協議会や行政に相談し早急に問題の解決を図るようにしているが最近はやや安定している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	①身体拘束の防止については全職員が常に厳しく徹底しております。またその重要性についても認識し介護に対応している。②創設以来身体拘束は一件も発生していない。③管理者等が先頭になり毎日の介護・仕事の中で拘束に近い状態が発生していないか最善の注意を払っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	①施設内で研修会を計画し虐待の防止に努力研鑽している。②全職員はその重要性を認識し毎日の介護に対応している。③取締役及び管理者は常に虐待の防止に最善の注意を傾注している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	①制度については・書類等預かりサービス・福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス等一応理解している。②現在この制度に該当する人は三名在籍しておりますがこの事業に係る職員としては制度の熟知に努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	①契約に関しては努めて本人及び親族に同席して頂き入念に説明しその場で契約を締結しないで、契約書を持ち帰っていただき納得した上で日を改めて締結するよう配慮している。②契約に関しては一切問題は起きていない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	①利用者さんは重度の認知症の方が多く意見の徴収は困難な状況ですが家族からは電話及び無記名の投票箱も準備しており意見の徴集する態勢は出来ている。②創設以来気になるような意見は無い。利用者に対する対応に感謝の意見が多い。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	①業務の運営・活性化のため毎月職員会議を開催し職員の忌憚の無い意見を尊重し「業務改善意見」として反映している。②意見交換はマンネリ化を防止し運営に多大なる成果を上げ貢献をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は施設・事業把握を急ぐとともに、利用者との懇談及び家族等との電話での対応そして地域密着型での職員の勤務状況を確実に把握しつつある。一方職員は理念に基づき堅実に働き成果を上げている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職場研修は計画を作成し毎年実施している、又外部研修は日給及び諸経費を支給しそれぞれ多大なる成果を上げている。なお外部研修参加については職員各位の判断で外部計画に参加するよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	①市内同業者との懇親会・懇談会に自主的に参加しサービスの向上に研鑽している。②近所にも同業者が頑張っておりますので良い意味でライバル意識を持ちお互いに切磋琢磨している。③入居希望者等の紹介をするなど良い関係を保持している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	①施設に入居前に本人・家族等より詳細に亘りお話を承り、また担当のケアマネよりも状況を説明を受けている。特に本人が困っていること不安に思っていることは概ね把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	①家族の困っていること、不安に思っていること等の相談を受け入れる体制は確保している。家族の不安を払拭することは毎日些細なことでも利用者さんの状況を電話で通知している。②施設からのお願いで最近家族の面会の機会が多くなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	①入所前に施設見学により自立に向け必要な支援を見極め把握し、又受け入れのための検討会を実施している。②現在他のサービスを必要とする利用者さんは在籍しないが施設としてはいつでも対応できる心の準備は出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	①孤独の状況に落ちがちな9人家族(利用者さん)を支えながら自立に向け職員は侵食を共にしながら切磋琢磨している。②職員は努めて平等に全利用者と毎日会話に心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	①現在家族は施設に全面的にゆだねたような関係になっておりますが、今後は家族よりの積極的な支援を期待している。②施設にまかせっきりで利用者様と家族は疎遠になりがちであるが此の関係を改善したい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	①施設の理念でもあり馴染みの町内・友人との関係を大切に支援し努力しているが最近重度の認知症の方が多くなり苦慮している。②本人の希望により元気な利用者さんは入所前の町内に案内し旧交を温める支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	①最近重度の利用者さんが多くなり元気な利用者さんが虚弱な方の手を引いたり居室の掃除を手伝う状況は少なくなったが良好な関係を保持している。 ②施設全般は重度化し対応が困難になってきたが利用者同士の関係は良好である。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	①本人等の希望により老人ホーム等に移設する場合は新しい施設で支障が生じないようにグループホームでの生活状況を通知する等関係を保持している。 ②他所に移動しても積極的に情報を提供しよう心がけている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	①利用者さんが本当に望んでいること、利用者さんにとって本当に必要なことは何かを把握し本人本位に支援している。又キーパーソン意見も尊重している。 ②強度の認知症の方は話しかけや手を握るなどのスキンシップを図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	①プライバシーの問題もあり把握は困難を伴いますが利用者さん個々の歴史や経過を把握することに職員は努力している ②今後も家族等のご協力を頂きながら根気よく把握に努める。しかし、大半の利用者さんの生活歴等は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	①本人の出来ること出来ないこと、分かること分からないことを把握することが大切であり実施している。今後も現状把握にベストを尽くす。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	①本人がより良く暮らすためにどんな支援が必要か、家族職員の意見を参考に、また毎日の様子・過去の生活を参考に検討し計画を作成している。②モニタリングは必要な時にその都度実施しているが少なくとも3か月に1回は結果を記録している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	①毎日本人の様子を克明に記録し職員は共有すると共に介護計画に反映させている。②職員の意見を尊重し状況によってはケアプランの見直しをしている。③ケアプラン変更の場合は特に利用者さんの新しい兆候に注意している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	①突然帰宅願望が発生した場合は家族と相談し臨機に対応している。又帰宅したけど馴染みの職員のいる施設に早く帰りたい。と言われるほど良好な関係を保持している。②最近施設全体が落ち着いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	①外出先で施設に帰られない場合を想定し警察・近隣の関係者に平素より協力関係を依頼している。②ボランティア(紙芝居・歌ボラ・会話)を受入れ成果を上げている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	①かかりつけ医の受診を最優先させている。なお主治医は24時間365日の対応で感謝している。②かかりつけ医が突然不在の場合は病院の看護師が対応している。③施設の看護師も何時でも電話で対応して頂ける体制は出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	①看護師により日常の健康管理や相談を実施している。又毎日の生活の中から個別の健康管理を実施すると共に即応体制にも迅速に対応できる体制を確保している。②看護師は施設より近く素早い対応をしてくれ助かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①重度化した場合の対応・医療連携及び看取りに関する指針があり利用者・家族の承諾を頂き共有している。②キーパーソンからの要請で延命処置は必要ないと承諾を頂いている方もおられる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	①重度化した場合の対応・医療連携及び看取りに関する指針があり利用者・家族の承諾を頂き共有している。②キーパーソンからの要請で延命処置は必要ないと承諾を頂いている方もおられる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	①急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり職員には徹底しておりますが、創設以来幸いにも事例が少ないため、対応未経験の職員も在籍しており今後も定期的に訓練している。②施設のミーティング等の時間を利用し管理者からの説明や勉強会でかなりの練度に上達している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	①防災計画に沿って定期的に訓練を実施し消防署に報告済みである。なお、町内よりの支援依頼については町内会長より承諾を頂いている。②地域よりの支援協力なくして安全は確保できないことを肝に銘じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	①ケアマネジメントでは利用者・家族のプライバシーを聞き取るため施としては厳重な守秘義務を課せている。又職員も全員趣旨を理解している。②特に排泄時及び入浴時の対応は最善を尽くしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	①毎日の生活の中で意図的（入浴の順番・カラオケの選曲・テレビ番組の選曲・散歩先の選択）に促す取組みを日常的に実施している②強度の認知症の利用者さんには苦慮しているが時間を掛けながら決定を引き出すよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自立支援を図るため利用者の「出来そうなこと」「やりたいこと」を極力手を出さず見守りを重視している。また散歩については本人の意向・希望を尊重してその都度実施しているが利用者が重度化しており対応に苦慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	①身だしなみについてはそれぞれの好みどおりに、又美容院については希望通り支援している。②顔なじみの理容店又は美容店に予約を取り送迎のサービスを継続している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さんと職員は同じ食事を一緒に楽しみながら食べ方の混乱や・食べこぼし等に対する支援をさりげなく実施している。食事の支度は元気な利用者と共に実施するよう心がけている。一人で食べることができない利用者さんには職員の全介助で実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養の過不足が起こらないよう毎日の食事で見守りを重視している又食事については外食産業の管理栄養士にメニューの希望を出し支援している。水分の確保については問題はない。しかし空腹感・満腹感の喪失した利用者さんには最善の注意を傾注している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯磨き・うがい・入れ歯の消毒及び出血や炎症のチェック等利用者の残存機能を引き出しながら口の中の汚れや臭いが生じないように口腔の清潔を日常的にそれとなく支援している。なお、残存機能を失いつつある利用者さんには意識に乏しく全面的に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	①オムツを出来る限り使用しないで済むように利用者の排泄パターンを把握し事前にトイレへ声掛けしている。②個別の24時間体制の排泄記録を作成し支援している。③現在排泄自立者が残存機能わ失うことの無いよう最善の努力をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	①自然排便を促すため水分補給・繊維食品及び運動散歩の追加等毎日の生活の中で継続的に対応している。②個別に排泄の状況を把握し対応している。③食べ物・毎日の機能訓練にも配慮している。④オムツ利用者にはそれぞれ時間でトイレに対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	①浴槽は一般家庭と同じお風呂でゆっくり楽しく本人のペースで対応している。又機械欲も完備しており、重度の方及び風呂嫌いの利用者さんもそれとなく誘い週2回以上は実施している②浴室での転倒事故防止には最善を尽くしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	①眠れない利用者さんには日中の活動に配慮している。なおどうしても眠れない夜は職員が話し相手になる等対応している。②眠剤に頼らないよう日中に散歩・軽度の運動を常に心がけている。③夜間眠れない利用者さんには短時間話し相手で眠気をさそっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	①医師・薬剤師よりのアドバイス及び市販の本による解説で概ね職員は理解している。なお薬の管理は利用者さんは困難であり施設で管理している。②副作用が出ることもあるためほかの持病についても看護師の説明で理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	①自立支援を図るためそれぞれの利用者さんの「できそうなこと」「やりたいこと」を極力手を出さずに見守りを重視することにより楽しみ、気分転換を支援している。②誕生会を設定し、楽しみ気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	①努めて散歩若しくはドライブにより外出を楽しんで頂けるよう配慮しているが重度の利用者が多く苦慮している。なお施設には専用の車両を配置してありいつでも利用できる。②強度の認知症の方には施設の前が公園であり大いに気分転換に役立っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	①お金を管理できる利用者さんは在籍しておりません②全利用者は施設で管理し日用品や化粧品等を自由に買い物できるよう支援している。③強度の認知症のお年寄りはお店の店員さんと事前に調整し実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	①電話については利用者さんの希望の都度を支援している。手紙を書ける入居者は在籍しておらない為一ヶ月に一度は家族宛に管理者より近況を知らせている。②重度の認知症の方は家族に通知を特に密にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	①職員は利用者さんの要望を取り入れ居室・食堂の配置を変更したり、また地元農家より度々生花の差し入れがあり居心地の良い環境を確保している。②フロアーの配置換えは重度の認知症のお年寄りを混乱させるので特に注意している。③自室で過ごす時間は少なく大半は皆さんとで過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	①それぞれの居室は床暖房また暖冷房が完備しており一人で静かに過ごすことが出来る。また気の合う友達と話すことが出来るようそれぞれ配慮している。②重度の認知症の方は配置換えに混乱が起きないように配慮しながら実施している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	①思い出の建具等持込み楽しく居心地のよい環境を確保している②家族等と話し合っ利用者さんの自宅より思い出の物品を搬入している。③各自のお部屋はそれぞれ気に入った配置になっている。④利用者の大半の方は皆さんとフロアーで過ごす時間が長い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	①施設内はそれぞれの身体機能を活かすことが出来るよう安全で自立した生活が出来るよう細部に亘り配慮している。②残存機能を少しでも維持できるよう職員は切磋琢磨している。④それぞれの残存機能に合わせた機能訓練計画を作成し対応している。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 はくおうの里（二階 三階 共通）

作成日： 平成 30年 1月 28日

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	①施設は海岸に近く海拔も低い為、東北並みの津波に遭遇した場合は利用者の安全確保が大変難しい。 ②道路が津波で遮断され明けの職員の呼集・出勤は期待できない。	①平時はゴミの集積場の掃除等を積極的に実施し町内との懇親を深め災害等の場合の支援を期待している。 ②町内会長には救助依頼を運営推進会議等の機会に常に懇願している。	①近隣のマンションの最上階に避難を希望しているがエレベーターが無く住民の説得は時間が必要である。 ②住民の高齢化が進むまで暫く時間が必要と思慮する。	36ヶ月
2	60	①利用者の60%の方が歩行困難で自力移動は困難である。 ②重度の認知症及び寝たきりの方も在籍しており対応に苦慮している。しかし職員は経験と実績で対応している。	①利用者の残存機能の維持。 ②施設内でその人らしい楽しい生活の維持。	①年度の計画で利用者を分散しドライブ及び外食・ミカン狩り等で楽しいひと時を過ごしている。 ②無理の無い機能訓練の継続で残存機能の維持に職員は努力研鑽している。	12ヶ月
3	57	虚弱者の対応でややもすると他の利用者さんの会話・希望等を見落としがちである。	①利用者さん一人一人の状態残存機能を把握し無理の無い機能訓練を継続する。 ②努めて歩ける方、歩行困難な方には車椅子等で散歩の機会を増やす計画をする。	①食事の際は下膳のできる方にはやっていただく。 ②入浴の際は時間がかかっても自分で出来るところは見守り委専念し実施して頂く。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月